

熊本県営阿蘇車帰

風力発電赤字計1億円

風少なく発電量伸び悩み

熊本県の県営阿蘇車帰風力発電所（阿蘇市）が2005年の運転開始

以来、年間の売電目標を一度もクリアできず、総額9487万円の赤字に なっていることが6日分かった。想定通りの風が吹かず発電量が伸び悩んでいることが理由だが、事前の風力調査が不十分だった可能性を指摘する専門家もいる。福島第1原発事故後、注目されている風力発電だが、採算



を確保することの厳しさが浮き彫りになった。

風車は直径47メートル、29基の計3基で、総事業費は国の補助も含め約4億6800万円。県

企業局によると、1996年に候補地選定に着手し、最初の数年は専門のコンサルタント会社、その後は県独自に風速や風向きなどを調査。天草や熊本市内など県内約20地点から「十分な風があり、採算性も保てる」として現在地を選んだ。

ところが、運転開始後、羽根の上部と下部で風向きや風速が異なったり、風車の前後でも風向きが違ったりして、スムーズ

に回らない事態が続出。軸部分の故障も発生し、県企業局は「調査で分からなかった想定外の風が吹いた」と説明する。ただし、風車の軸部分は地上約36メートルだが、調査で使用した観測ポールは最も

高でも30メートルで、正確なデータが得られなかった可能性がある。県は当初、年間発電量の採算ラインを約千世帯の消費量に相当する347万7千誇時

約270万誇時に下方修正したが、実際の発電量は09年度128万誇時、10年度145万誇時、11年度177万誇時止まり。単年度収支は初年度から11年度まで305万2606万円の赤字となった。企業局の電気事業会計は赤字を水力発電の黒字で補填してきたが、09年度からは赤字に転落した。

県は7月に始まる再生可能エネルギーの全量買い取りに向け、九州電力と値上げを含む売電契約の見直しを進めたい意向。風力発電に詳しい九州大応用力学研究所（福岡県

春日市）と協力して、設備の改善も図る方針だ。

（高野靖之）

事前に厳密調査必要

九大応用力学研究所の内田孝紀教授（風工学）の話 自治体の風力発電施設は、採算が取れずモニターとなった

り、撤去されたりして、全国で苦戦が続く。環境に優しい新エネルギーへの取り組みは対外的なアピールになるが、事前に厳密なシミュレーションを実施していないケースが多い。阿蘇車帰の周辺は風が乱れており、あらためて風の状態を調査する必要がある。